# 埼玉親善大使レポート

氏名：佐々木玲奈
留学先：タイ　ナコンパトム

私は、大学の交換留学制度で、タイの Silpakorn University(以下シラパコーン大学)に２０２３年７月２９日から２０２４年１月１３日までの６ヶ月間留学しました。
以下、留学での体験と埼玉県親善大使としての活動をまとめました。

**●大学**

私が今回お世話になったシラパコーン大学は、タイの首都バンコクの中心地から二時間ほど離れたナコンパトムという町にある大きな敷地の大学です。サナムチャンドラ宮殿の敷地内にキャンパスがあり、周辺は豊かな自然に囲まれていて、犬や大きなトカゲなどの生き物達が人々と共存しています。

毎週決まった時間にマーケットが開かれ、食べ物やお菓子の他に生活雑貨や学生が作った小物を販売したりと、生徒達に自主性のあるとても賑やかな学校です。

▲校内の風景

タイ全土で親しまれている「シン・ピーラシー」という人物がいます。シン・ピーラシーは、タイにおける近代美術の父とされる人物です。シラパコーン大学の創設に携わり、彫刻や絵画などの美術教育の指導に力を注ぎ、戦勝記念塔やラーマー世像など多くの作品を手掛けました。彼の教育によって多くのタイ人アーティストが生まれ、タイの近代美術史が始まりました。大学内では至る所にシン・ピーラシーのウォールアートがあり、記念日には学内祭が催されたりと、老若男女問わず彼を敬愛していました。

▲ 生徒によるミュシャ風のシン・ピーラシーのウォールアート

**●生活と文化**

私はこの度の留学が初めての一人での海外滞在だったため、タイの文化に慣れながら生活を送るのにとても苦労しました。戸惑ったこととして一番に挙げられるのは気候と環境です。到着してから四ヶ月間は雨季という降水量が大変多い時期だったため、慣れない移動中に、激しいスコールに何度も見舞われました。また、最も暑い暑季を過ぎていたとはいえ、毎日うだるような暑さと直射日光でした。タイでは街を歩いていると安価な軽食店や甘い食品を扱う屋台がたくさんありましたが、こういった気候の中で働く人々にとって、エネルギー補給として欠かすことのできないものだということがわかりました。

仏教国タイでは不殺生の教えに従い、野良猫だけでなく野良犬までもが殺処分されず、大学の敷地内や町中、寺院の敷地内を自由に闊歩しています。野良犬の数が圧倒的に多く、皆半野良状態のため、屋台や地域の人々から餌をもらい生活しています。普段は関わろうとしなければ無害ですが、うっかり犬のテリトリーに足を踏み入れたり機嫌を損ねると追いかけてきます。

タイの町並みの至る所にカラフルな「サーンプラプーム」という祠があります。土地に家やお店を建てる時に、家や家族の安全や商売繁盛の祈願のためにつくられます。配置や色などに決まりがあり、ただ建てるだけではなく、中に神様の代わりとしての人形を配置し、最

後に儀式をすることで神様が宿ります。こういったものから、信仰が生活の中に生きている様子が伺えました。

**●学習した事**

私は彫刻美術の研究をしているので、美術学部に所属し、教授や生徒の方々の助けを受けながら、作品を制作したりタイ国内各地にリサーチに行きました。

彫刻美術を学ぶ美術学部の生徒の方々と一緒に作品の制作をしたり、美術館に見学に行ったりしました。仏教彫刻だけでなく、国王や偉人をかたどった石膏像と、その製造方法の見学にも行きました。

また、学期末には美術学部の展示会に参加しました。滞在中も受けた影響をアウトプットするために、テラコッタ粘土で兎をモチーフとして作品を制作しました。兎は私が日本にいる時から自分の作品のテーマとしています。

◂校内での作品展示会

**●埼玉県のＰＲ**

　タイにとって日本はとても身近で親しみのある国であるため、街の至る所で日本語や日本の商品を目にしました。ですが、埼玉県という限定された地名だと知らない方が多かったです。学生の方々も日本の漫画やアニメなどの文化が大好きで、中でも漫画『ONE PUNCH MAN』のサイタマというキャラクターの知名度が高く、それを切り口に埼玉の話を興味をもって聞いていただくことができました。

また、日本から持ってきた緑茶と折り紙で作った折り鶴を友人やお世話になった人々にプレゼントしたり、埼玉県の紹介ポストカードでメッセージを送り、その際に埼玉県がトップの生産数を誇る雛人形や埼玉県の魅力を紹介しました。実際に行ってみたいと、興味をもっていただけました。

▲ご当地フォルムカードを使い、感謝のメッセージと共に埼玉県の魅力を伝えることができました。

**●第二次世界大戦下における日本とタイの歴史**

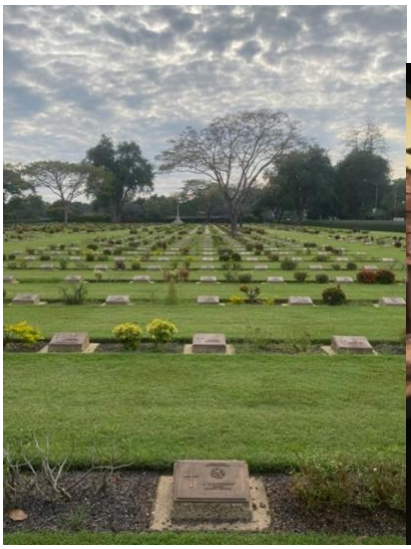
タイへの留学を決めた際に、日本との関係を知りたいという目的がありました。リサーチする中で、泰緬鉄道の事を初めて知りました。

泰緬鉄道とは、第二次世界大戦下で日本軍が、アメリカ・イギリス・オーストラリア人の捕虜と現地のタイ人労働者、中国やインドネシアなどのアジア諸国の労働者を非人道的に扱い、多くの死者を出して作られた鉄道です。

鉄道のあるカンチャナブリー県には歴史の博物館と犠牲者が眠る広大な墓地があり、多くの海外観光客が訪れていました。

博物館にあった「許そう、でも決して忘れない」というメッセージがとても印象的でした。日本が過去に行った残虐な行為を日本人である自分はこれまで知らずに生きてきた自分がとても恥ずかしくなりました。

戦争や虐殺が過去のものではない現在の世界で、日本も過去のことだからと言わず自国が諸外国に行ってきた事実を知り、反戦を訴えていくことが大切だと思いました。



▲連合軍共同墓地とヘルファイアパス博物館　▼JEATH 戦争博物館の日本軍による被人道的な行いの再現人形

▲カンチャナブリにある慰霊碑

**●終わりに**

この留学で私は、人が一人で生きるには、たくさんの人々による助けが必要であることを学びました。

私は海外で一人で生活するのが初めてだったので、出発前から初日にかけては、ちゃんと生活することはできるかとても不安でした。実際に到着してからすぐは、日本との環境や文化のギャップに戸惑ったり混乱したりしました。ですが、その度に先生や友達、たまたま居合わせた優しい人々が助けてくださいました。勉学や生活において、自分一人で出来ることは僅かであると思い知り、自分も日々の生活の中で、人を助けられるようになろうと思いました。

また、自分が生まれ育った環境を一旦離れ、タイの人々に日本や埼玉県のことを話すことで、国外から改めて魅力を再確認しました。同時に、タイの気風や文化の素晴らしさを学ぶこともできました。

半年間という短い期間でしたが、本当に貴重な経験を得ることができました。これからも周囲の人々への感謝を胸に、埼玉県親善大使としての義務を果たしたいと思います。